【様式1】 滋賀こども体験活動実践交流会 団体事例紹介シート 2024

『令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ

1. 事業・活動の概要・成果等

自然を楽しみながら学ぶ場を提供し、びわ湖版SDGs「マザーレイクゴールズ(MLGs)」の枠組みの中で、4項目の目標を定め、その達成のため、子どもたちが自主性や協調性を身につけ、野外活動や自然活動の各種プログラムを体験してもらった。

この7日間の体験で、参加者の「生きる力」や「非認知能力」の向上に工夫を凝らし、心身の健全な発達を促し、また環境負荷低減について少しでも理解と行動が今後できるようにし、特に心の成長である、「思いやり」「強い気持ち」「絆」等 そして「感動」の主観的な活動も大切にし、事業を実施した。

活動の様子

活動の様子

活動の様子

2. 団体の紹介

公園ビジョン

希望が丘文化公園は、木々の緑や太陽の光、清らかな空気が訪れる人たちに安らぎを与え、自然を忘れがちな私たちの心のふるさととして、また、明日への生命を甦らせてくれる場として、将来にわたり守り育てていかねばならない滋賀の財産です。

この恵まれた自然の中で息づくものを守り、様々な体験活動を支援するとともに、主体的、継続的な環境保全に努め、あらゆる環境負荷の低減を図りながら、地域社会に貢献できる公園を醸成しなければなりません。

生活により身近な憩いの場として、地域を活気づかせる公園を創出するために、人や環境への配慮を高めます。また、活動を継承する人材を育成し、幅広い参加者との連携・協働など、県民を巻き込んだ一連の取り組みにより、100年先にも誇れる公園づくりに邁進します。

3. 人材（スタッフ・次世代を担う若者）を育成するときに大切にしたいこと・気を付けていること

希望が丘キャンプリーダー指導方針

公園内での個人やグループの利用に対して、キャンプのプログラム等の指導をする役割を担い、指導者として育成する。キャンプの意義やキャンプの安全などの知識を学ぶとともに、実際にキャンプのアクティビティを体験しながら、プログラムの指導も学び、公園主催事業におけるグループリーダー、サービススタッフはもちろんのこと、事業におけるチーフ等、ディレクターの業務もできるよう指導し、組織キャンプ・教育キャンプをより一層理解・実践できる人材を育てる。

第 28 回日本キャンプミーティング

日程:2024 年 11 月 9 日(土)
会場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
〇キャンプの実践発表・研究ポスター発表&団体・企業紹介
セッション　16:35～17:30 による発表

『令和6年度　文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」 教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』

希望が丘夏休みわんぱくキャンプの実施結果の普及

<発表の概要>

主催団体、直接指導するキャンプリーダーそして参加者や保護者が、「現状と課題」を認識した上で、長期キャンプを体験し、結果として「生きる力」や「非認知能力」、「自然や環境への理解(SDGs)」等がどう変化したのかを、テーマ・目的、実施内容を時系列で紹介し、この活動を普及する。

【テーマ】　心から心へ　～自立と協力の 7 日間～

【目　的】　参加者自身が自分と向き合い、まわりを見つめ、チームの一員として3つの項目の目的とする。
◎自分の参加動機とわんぱくキャンプの目標をしっかり認識する。
◎そのために皆と考え方ややり方を、話し合い工夫する。
◎参加者同士協力し、目標達成を目指して粘り強く取り組む。
☆7 日間の自然の中での生活を通して、「自分で考えて行動する力」 と「仲間と協力して物事を解決する力」の 2 つの力を習得し、互いに心(非認知能力や生きる力等)を成長させる

【事業概要】　自然を楽しみながら学ぶ場を提供し、びわ湖版SDGs「マザーレイクゴールズ(MLGs)」の枠組みの中で、4 項目の目標を定め、その達成のため、子どもたちが自主性や協調性を身につけ、野外活動や自然活動の各種プログラムを体験してもらう。

この 7 日間の体験で、参加者の「生きる力」や「非認知能力」の向上に工夫を凝らし、心身の健全な発達を促し、また環境負荷低減について少しでも理解と行動が今後できるようにする。特に心の成長である、「思いやり」「強い気持ち」「絆」等　そして「感動」の主観的な指標も大切にし、事業を実施する。

〇滋賀県が2021年 7 月 1 日、マザーレイクゴールズ推進委員会が掲げた「Mother Lake Goals 変えよう、あなたと私から」から事業プログラムを展開。具体的には13の項目から以下の4項目に絞る。

3「多様な生き物を守ろう」　・身近な自然を知る、学ぶ ／ ・間伐等、森林保全活動
4「水辺も湖底も美しく」　・ゴミ排出量の削減 ／ ・マナーを守っての行動
5「恵み豊かな水源の森を守ろう」　・里山の保全
10「地元も流域も学びの場に」　・自然体験プログラム

上記の項目を中心に、計画、実践を行う。

Mother Lake Goals
変えよう、あなたと私から

【現状と課題】

①「生きる力」や「非認知能力」への、こどもたちの関心の薄さは、ここ数年のコロナ禍の弊害が大きな要因であり、対面経験の欠如やフィールドワークの体験機会の減少、ネット環境における仮想体験への偏りなどが起因し、また学校現場でこういった機会が減少している。

特に小学生の成長における「体験」の繰り返しより

・相手の気持ちを読み取る力　　・自分の気持ちを表現する力

・自分を好きだと思う気持ち　　・他者への思いやりの心　など

難しい状況であることが現状であり、解決していく課題と考える。

②自然や環境への理解不足も、状況は左記と同様である。SDGsは、学校で学ぶ機会は増えているが理論や卓上での議論が多く、実体験での行動は難しく、提示されたことは取り組むが、自分を取り巻く環境で自ら考え、継続して行動する機会は少ないことが現状であり、この方向性を大切にすることが課題である。

＜添付資料＞

〇プログラムと結果考察

〇「IKR」「MLGsの力」の変容・・・保護者および参加者のアンケート結果より

〇保護者からの事前、事後アンケート結果

発表：公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園
野外活動センター　豊田 博
〒520-2551 滋賀県蒲生郡竜王町薬師1178
電話 077-586-1100
FAX　0748-58-0220
mail　toyoda-hiroshi72@kiboupark-shiga.or.jp